

国 語 問 題

はじめに、これを読みなさい。

1. この問題冊子は十八ページある。ただし、ページ番号のない白紙は、ページ数に含まない。
2. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
3. 監督者の指示に従い、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマーク、もしくは記入すること。所定欄以外のところには、何も記入しないこと。
5. マーク式問題の解答はすべて一つなので、二つ以上マークしないこと。
6. 字数が指定された問題では、句読点などの記号も字数に含む。
7. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入すること。
8. 解答は楷書で正しく記すこと。薄い文字や小さな文字、点画をつなげた文字など、あいまいな文字は不正解とする。
9. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。
12. この問題冊子は会場などに放置せず、必ず持ち帰ること。
13. 試験時間は六十分である。
14. マーク記入例

良い例	悪い例
	

不正解になる文字の例

(衣) 衣

(点) 点

(召) 召



次の文章をよく読んで、設問に対する答えを、解答用紙の該当欄に記入、またはマークしなさい。

いずれの国にも、国民にはいわゆるお国自慢があつて、そのお国自慢の中にも、自国の文化が自発的であるということが、よほど重きをなしているのである。しかし、これはある少数の古い国、エジプトとか、支那^{注1}とか、インドとかいうものを除いては、理由なき謬想であつて、たとえば、児童が生まれ落ちてから、漸次智慧がついてくる年頃は、年長者から導かれ教えこまれることが、その智識の基礎になることは明瞭なる事実であるが、その児童が成人した後、自己の智識の根本について自慢を有し、自己の智識は最初から他の智識を選択するだけの識見をそなえていて、年長先進者の智識を自己に同化し、もつて今日の發達をきたしたということを主張したならば、何人もその無^Aケイなることを嘲^B笑せざるものはないであろう。個人間では、かくのごとき知れきつた道理が、妙に国民間においては、道理にはずれた解釈をくだそうとする。日本文化の起原においても、ちようどそれと同一の謬想が存在する。国史家はじめ多くの日本人は、今日でもややもすれば日本文化なるものの、最初からの存在を肯定し、外国文化を選択し同化しつつ今日の發達をきたしたと解釈せんと欲する傾きがある。この謬想はずいぶん古くからあつて、国民的自覚が生ずると同時に、日本人はすでにこの謬想に囚われていたといつてもよい。維新以前の日本文化起原論ともいふべきものは、最後にこの立論の方法でほとんど確定せられていた。日本が支那文化を採つて、それによつて、進歩發達を來たしたということは大体において異論はない。もつとも徳川氏の中頃から出た¹国学者たちはこれにさえも反対して、あらゆる外国から採用したものは、すべて日本固有のものよりも劣つたものであり、それを採用したがために、わが固有の文化を不純にし、わが国民性を害毒したと解釈したのもあつた。今日では、その種類の議論は何人も一種の

ア

としてこれを採用しないが、しかし、自国文化が基礎になつて、初めから外国文化に対する選択の識見をそなえていたということだけは、なるべくこれを維持したいという考えがなかなか旺盛である。

たとえばここに忠孝ということがある。忠孝という名目はもちろん支那より輸入した語であるが、忠孝という事實は元來日本国民が十分にそなえていて、自分が所有せるものに支那から輸入した名目を応用したものといふことに解釈しようと欲する

傾きがある。しかしながら、これを根本より考えてみると、すでに国民がもつておつた徳行の事実があり、しかしてまた他方に固有の国語がある以上、何かその事実に対応した名目がなければならぬはずである。ここに数をかぞえるにも日本人は今日では支那より輸入した文字なり、音なりで一、二、三、四というごとき語を使用するが、しかし現にその輸入語のほかに固有の国語である一つ、二つ、三つ、四つというものをもっている。しかるに忠孝という語のごときは、日本民族が支那語を用いる以前にいかなる語で表していたかがほとんど発見しがたい。孝を人名としては、「よし」「たか」と訓むが、それは「善」「高」という意味の言葉であつて、親に対する特別語ではない。忠も「ただ」と訓むのは「正」の意味で、「イ」という義に訓するの、親切の意味で、これも君に対する特別の言葉ではない。一般の善行正義というようなほかに、特別な家庭的な、ならびに君臣関係の言葉としての忠孝ということが、すでに古代にその言葉がなかつたとすれば、その思想があつたか否やが大いなる疑問とするに足るではないか。これは単に、目前に知れやすき例を挙げたのであるが、すべての文化的現象が、いづれもかかる関係にあるのではないかという疑いを発し得る。これを近年発達した史学・考古学等の智識からいえば、その疑問がますます多くなってくる。日本の歴史の起原を、普通に神武紀元とするが、その以後も数百年間はなお

エ の時代ではない。けれどもともかく神武以後は、神代の事の多くは神話に属し、その中から歴史的事実らしいものを拾い出すことはよほど困難であるとはちがい、いかなる地方に、いかなる順序で、民族的団体が形成せられ、その地方的伝説がしたがつて出来てきたかということを知ることができる。その年代に関して近來の歴史家の多くは、大体耶蘇紀元注2ごろと定めるのが決して空^cバクたる推定ではない。しかるに考古学の進歩によつて漸次知られている遺物は、少なくともそれ以前からのものである。しかも、その当時の遺物が、すでに明らかに支那文化遺物の変形であるということ認めしむるものが多い。

支那文化によつて日本文化が形成せられる時代はずいぶん長きにわたつていたので、政治上社会上、その進歩が徐々に完成して行つたのである。国民がある他の文化を継承しても、ある時代になると自覚をきたすが普通で、日本に限らず、支那の付近にある後進民族は、たとえば漢代の匈奴のごときも、支那文化の刺激によつて民族を形づくつた以上は、民族の独立という自覚を生じた。すなわち、漢の初めにおいて、すでに匈奴は漢の皇帝に対して、みずから天の置くところ、日月の照らすと

ころ、匈奴の大単于ぜんうというようなことを唱えたのであって、日本でも聖徳太子の時、初めて支那に対して、日出づる処ひいでの天子と称して対等の語を用いた。以上のごとく、国民の自覚は常に政治的に最も早く生ずるが、真の文化的思想的に自覚を生ずるには、これよりはるかに遅れるのが常である。時としては自覚を生ぜずして終わった国もある。日本民族は、さすがにある時代には思想的自覚を生じた。それは自分の見るところでは蒙古襲来が最大の動機をなしたので、南北朝から以後、極めて徐々に文化的思想的の自覚を生じつつあって、最近支那以外の文化ならびに思想を承け入れることになってから、完全に支那に対して思想的に独立したのである。しかし今日でも真の日本文化が完全に形成せられているや否やは **オ** 疑問であつて、思想のごときも、支那思想の拘束からはほとんど脱せんとしているけれども、同時にまた西洋の思想の拘束を現に受けつつある。文化の極度は芸術においていちじるしく現わるものであるが、日本の絵画に徴してこれを見るも、古き支那絵画の拘束は百年ばかり前からこれを脱せんと思つたのであるが、 **カ** 支那芸術の拘束を脱しても、それが支那芸術と対抗するほどの高い程度のものでなくして、たんに支那芸術に地方色を加えたに過ぎないものであつては、真に目覚し、かつ独立したものといい難い。日本の写生派の芸術のごときは、すなわちそれである。しかもまた、最近に至つてその芸術がややもすれば西洋画の拘束に囚われんとする傾きあり、真に日本の芸術の独立は前途なお遼遠なる心地がする。もっとも他国の文化の拘束を脱しないからとて、民族の生活を向上し、またそれを他の劣等な民族に感化を及ぼし、あるいは自己より先進の民族にさえも **キ** 感化を及ぼすということは、絶無ということはなく、時としては、それをもつて自己の民族の文化だと考えることもあるも、それは厳密に言えば決して民族自発の文化とはいいがたい。かく歴史的に日本文化の由来を考えると、はなはだ心細い感がする。しかし、これはまだ民族の若いためであると考え、将来真に成熟期に入るのであると考えれば、前途の希望は、また大いなるものあるともいわれる。ただ前述のごとく、民族は必ずしも幼少から老年まで順当に発達するとは限らない。苗にして秀でず、秀でて実らざる民族があるので、日本民族をかかると不幸の運命に遭遇せしめず、順当なる発達を遂げしめ、世界の文化に貢ケンすべき一大勢力となすのがわれわれの責任である。

(内藤湖南「日本文化とは何ぞや」による)

注1 支那は当時の中国に対する一般的な呼称で、侮蔑の意図はない。

注2 耶蘇はキリスト。西暦は、一般に彼が誕生したとされる年を元年とする。

問1 傍線部A「ケイ」、傍線部D「ケン」と同じ漢字が用いられる組み合わせを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 Aケイ而上の問題にとられる。 D 両国の関係がケン悪になる。
- 2 A祝日には国旗をケイ揚する。 D 参考文ケンを確認する。
- 3 A猫の滑ケイな動作に心が和む。 D 珍しい品物をケン上する。
- 4 A芝居のケイ古に参加する。 D 激しいケン幕を見せる。

問2 傍線部Bの漢字について、「嘲る」と訓読みする場合、その読みを平仮名で記しなさい。

問3 傍線部C「バク」を、漢字で記しなさい。

問4 傍線部1に関連して、「国学者」本居宣長の著作を次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 『万葉代匠記』
- 2 『古事記伝』
- 3 『湖月抄』
- 4 『冠辞考』

問5 空欄 ア に当てはまる適語を、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 負け惜しみ
- 2 ことば遊び
- 3 帳尻合わせ
- 4 八方塞がり

問6 空欄 に当てはまる適語を、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 ほがらか
- 2 あでやか
- 3 ひそやか
- 4 まめやか

問7 傍線部2「かかる関係」の意味するところを、「」も不確実になるといふ関係」の形で説明する場合、空欄に入る適切な記述を、本文中から二十八文字で抜き出し、その最初と最後の三文字を、解答欄に記しなさい。

問8 空欄 に入る適切な語句の組み合わせとして最もふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、

その番号をマークしなさい。

- 1 ウ 漢字 エ 仮名
- 2 ウ 伝説 エ 記録
- 3 ウ 文語 エ 口語
- 4 ウ 天皇 エ 将軍

問9 空欄 に入る副詞の組み合わせとして正しいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 オ あながち カ あまさえ キ すこぶる
- 2 オ かえつて カ ほとほと キ よし
- 3 オ すこぶる カ よし キ かえつて
- 4 オ ほとほと カ あながち キ あまさえ

問10 傍線部3「徴して」の意味として最もふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 証拠を求めて
- 2 考察の対象外として
- 3 内容を検討して
- 4 大勢で議論して

問11 傍線部4「日本の芸術の心地がする」という記述における筆者の心境として最もふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 中国の芸術のみならず、西洋の芸術からも独立することは困難なため、日本の芸術の独立には希望が見出せないと感じて失望している。
- 2 先人の努力が積み重ねられてきたのに、また新たな事態が発生したため、日本の芸術の独立にはなお時間を要すると感じて慨嘆している。
- 3 中国の芸術からも独立できたのだから、いずれは西洋の芸術からも独立できると考え、日本の芸術の独立に希望を見出して期待している。
- 4 東洋芸術からの影響のみならず、西洋芸術からの影響も強まっているため、日本の芸術が今後どこに向かうのかを見通せずに当惑している。

問12 次の選択肢の中から、筆者の主張や考えに合致するものを選び、その番号をマークしなさい。

- 1 自国の文化が自発的なものであるという考えは、日本に特有のものである。
- 2 「孝」という漢字は、もともと家庭的な道徳に関する意味を持たなかった。
- 3 多くの民族は、文化的な自覚よりも先に政治的な自覚を生じるものである。
- 4 つねに受動的な日本の文化が、他民族に影響を与える可能性は皆無に近い。

次の文章をよく読んで、設問に対する答えを、解答用紙の該当欄に記入、またはマークしなさい。

中国における「家」と、日本における「家」とは、その構造に根本的な差異があつた。中国では大家族制度といわれる生活の様式が存在したが、その家の内部においてはむしろ実力本位であつて、財産も原則として均分されるし、長男がすべてを支配するとは限らない。三男が社会的な実力者となれば、実際の発言力はかえつて長男よりも大きくなる。本家すじが傍^Aケイ^Aに対して拘束する力も、祭礼のときを除いては、目立つたものではない。ところが日本においては、長男が「家督」を相続し、その本家の「総領」に対しては、一族が絶対服従する。その家々の上に殿様がおり、その殿様たちの上に將軍が鎮座し、そして最上の結びの点に天皇家がある——という「木の枝わかれ型」の体制をなしていた。中国においては、王姓なり張姓なりという多数の大家族が別々に存在し、そのうちの有力家族が、文字どおり「実力」によつて豪族となり、ついには天子となるのであるから、天子にあきたらなければ、さつさと辞任して自分の家に帰ればよい。日本では殿様にタテついたが最後、お家が廢絶されるか自分が切腹するか、とにかく生存する余地すらも残されなかつた。

だから中国の朱子学における人間形成は、根本的には家の中における個々の人間のあり方、その家から出た個々の人士が権力者にどう対処するかという態度にすじ金を入れることをねらいとしたもので、一言にしていえば、かなりドライな個人道徳の形成を考えている。その個人が知識人や官僚という「士大夫」をおもな内容としたために、近代市民社会の個人ではなく、あくまで「治める人」の枠内にとどまっていたわけだが、それにしても、日本における個人よりもずっとドライなものであつた。

日本ではこれに反して、個人は主家からの束縛、本家に対する思惑、父兄に対する気がねなど、がんじがらめに情緒的なきずなに縛られていたわけだ。だから、そこにとりこまれた儒家思想は、本来の姿よりもはるかにウエットな情緒に包みこまれて、権力への無抵抗、家族の束縛に対するあきらめなどという、きわめて保守的な働きをになうことになつた。それが封建的な情緒を温存させ、近代的な個人の主体的自立を妨げるという作用を生じたことは、日中両国の社会の構造の違い、とくに日本的な「家」というもののせいであつたと考えてよいのではないか。

中国においては、二〇世紀の初頭に「打倒孔家店」「打倒札教」が叫ばれて、封建制度にまつわるいっさいのものを清算しようとした。共和制の樹立・男女の同権・自由結婚の要求など、すべてでそれであった。もつとも情緒的な面からいえば、昔から中国の使用人は主人の権力が恐くて服従しただけで、主人が落ちめとなれば、金品をくすねて逃走しようが、さつさと暇をとろうが、かくべつ心の痛みを感じたわけではない。日本のような情緒的な結合は、主従の間に存在しなかったといつてよからう。ところが日本においては、明治・大正と続いて、確かに漢文の古くささに対する反撃はあった。けれども、なにしろ隣国からの借り物だという気安さからして、その本質に食いこむほどのぶちこわしは日本では行なわれなかった。つまり中国の「五四運動」にあたる徹底的な旧文明・旧思想の批判が行なわれぬまま、ずるずると今日まで来てしまったのである。

だから日本における漢文、とくに儒学の功罪は、福沢諭吉や津田左右吉の批判があつたにせよ、まだ一般には徹底して裁かれてはいない。その最大の「悪」は、それが日本特有の旧社会的情緒にはつきりした表現のことばを与え、「父母に孝に、兄弟に友に、夫婦あい和し、朋友あい信じ……一旦緩急あれば義勇公に奉じ、もつて天壤無窮の皇運を扶翼すべし」といったような、ピラミッド型の情緒的結合を完璧ならしめたという点にあるだろう。

それが今日まで尾を引いている。たとえば父母の氣にいらなければとりやめる、同僚の悪事を知つてかばいあう、会社が妙な物を作り出しても、隠していわない、上役にゴマをすつて情実を通す、お上のなさることにメクラになつて服従する、議員諸公や大学の教授なら偉いものだと思ひこむ——といったいわゆる家族主義・権威モウ従^Bなどのウエットな人間関係がそれである。こういう点において、漢文が「東洋の思想」という名のもとに一役をになつてきたとすると、いまや思いきり断罪を²加えねばなるまい。

ところで、漢文の本質³は、はたしてそうであつたかという点、私は首をかしげざるをえない。すでにのべたように、中国そのものの社会は、日本よりもはるかに ア であり、それを イ ならしめたのは、じつは日本人の責任だと思われるからである。話を代表的な漢文古典に限定しよう。たとえば『孟子』の中に次のような一節がみえる。

孟子曰「民為^ク貴^シ、社稷次^レ之^ニ、君為^ラ輕^{シト}。是故得^ニ乎^ニ丘民^ニ而為^リ天子^ト、得^ニ乎^ニ天子^ニ為^リ諸侯^ト、得^ニ乎^ニ諸侯^ト為^リ大夫^ト。諸侯危^ク、社稷^ヲ則^チ變置^ス……」

これは、教科書の中に「孟子の民本思想」という解説つきで採られている有名な文句である。「人民は何よりも貴い、土地守護の社^{ヤシロ}はそれに次ぎ、君主は軽いものだ。」

さて問題はその次の文章である。古典漢語では「獲⁴乎^ニ有道^ニ」(『中庸』)というように、「得(獲)乎」という形は受身の意味を含むものと考えねばならない。だからここは「丘民に得られて天子となる」、つまり「山野の人民に拾われたものが天子となり、天子に拾われたものが諸侯となり……」という意味であると解しなければならぬ。だからこそ、人民が最高の主権者となるわけである。この文章はまさしく「民を貴しとなす」という前文^Cを敷衍^Cしたものである。したがって、諸侯などはないしたものではない。諸侯のくせに社稷を危うくする者がおれば、諸侯を變置すればよい。守護の社に対し所定の祭祀を行なっているのに、人民をそこなう水害や日なりがおこるようなら、社稷そのものを變置すればよい、という結論が出てくるのである。

孟子の原意は、まさしく右のとおりである。ところが朱子の注はそれをねじ曲げて「田野の民の心を得たならば天子となる」と解した。朱子だけではない、漢の趙岐の古注では「天下の丘民、みなその政を楽しめば、その人は天子となるのだ」と解している。朱子ほどではないが、やはり原意をねじ曲げている。人民を主人公と考えた孟子の意に反して、趙岐も朱子も、共に権力者天子のがわから、つまり支配者の座を念頭に置いて解釈しているのである。ドライな中国でさえ、こんな曲解が長年にわたり通行してきたのだから、日本人の注釈でも、この点を正しくとらえたものは、まずないといってよからう。こんな調子で扱われたのでは、⁵「孟子」は地下で泣いていることである。

この一点から見ても、およそ古典というものは、それを読む人、解する人の主体性、その人がどんな志向をもって古典に向かっているかによって、死にも生きもするものだ、ということが判明するであろう。古典が生きながらえているからには、必ずそこに体制への批判があるはずである。その批判の

エ

に欠けたものは、人間の共感を呼ぶはずがない。「調和と中

庸」などというごまかしことばによって、いかにも中国の古典が体制順応のお手本であるかのように見なしてきたのは、漢文畑の人たち自身が、そのような心の目を自らふさいできたからである。つまりは今まで古典を読む人の志向性がどうかしていたのであろう。

(藤堂明保「造反漢文のすすめ」による)

注1 打倒孔家店Ⅱ「儒教打倒」の意。五四運動のスローガンのひとつ。

注2 五四運動Ⅱ一九一九年五月四日、日本の中国侵略に抗議して行なったデモに端を発した中国民衆の愛国運動。近代的自我の確立を推し進め、旧文明からの脱却を唱えた。

問1 傍線部A「ケイ」、傍線部B「モウ」と同じ漢字が用いられる組み合わせを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 A 父方のケイ統。 B 無知モウ味。
- 2 A ケイ向と対策。 B モウ羅する。
- 3 A ケイ累を絶つ。 B モウ腸の手術。
- 4 A 家ケイ図をたどる。 B モウ点をつく。

問2 傍線部C「敷衍」の読みを、ひらがなで記しなさい。

問3 傍線部1「福沢諭吉」の著作でないものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 学問のすすめ
- 2 西国立志編
- 3 福翁自伝
- 4 西洋事情

問4 傍線部2「思いきり断罪を加えねばなるまい」としたのはなぜか。「日本において漢文は

合、空欄に当てはまる適切な言葉を、本文中から二十文字で抜き出し、その最初と最後の三文字を、解答欄に記しなさい。

問5 傍線部3「漢文の本質」として不可欠の要素とは何か。本文中から六文字で抜き出し、解答欄に記しなさい。

問6 傍線部4「獲^ニ乎^ニ上^ニ有^リ道^リ」の意味としてもつともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークし

なさい。なお、『中庸』において傍線部は「在^リ下^ニ位^ニ、不^レ獲^ニ乎^ニ上^ニ、民不^レ可^ク得^テ而^{シテ}治^ム矣^ニ」に続く一文となっている。

- 1 上位者から収奪されるのが、世の中の道理である。
- 2 上位者として出世するには、普遍的な方法がある。
- 3 上位の者から信任されるには、一定の方法がある。
- 4 上から順番に取っていくのが、一番の道理である。

問7 傍線部5「孟子」は地下で泣いていることであろう」と筆者が考えた理由として、もつともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 人民を主人公とするのではなく、支配者側からの解釈が行なわれているから。
- 2 日本はさておき、中国でも、孟子の意に反した解釈が行なわれているから。
- 3 とんでもない曲解のため『孟子』が古典としての調和と中庸を失ったから。
- 4 朱子という有名な学者の誤りによって、とんでもない曲解が広まったから。

問8 空欄

ア

イ

に当てはまる言葉の組み合わせとしてもつともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

1 ア 封建的 イ 近代的

2 ア 近代的 イ 封建的

3 ア ドライ イ ウエット

4 ア ウエット イ ドライ

問9 空欄

ウ

に当てはまる言葉を、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

1 天子

2 諸侯

3 丘民

4 社稷

問10 空欄

エ

に当てはまる言葉としてもつともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

1 ヒエラルキー

2 エントロピー

3 トポス

4 パトス

問11 本文の内容と合致するものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 日本において儒家の思想が近代的な個人の主体的自立を妨げることになったのは、日本の社会が情緒的きずなによって縛られていたためである。
- 2 中国の社会は元来実力本位であるため、その道德の規範は近代市民社会の個人としてではなく、あくまで「治める人」の枠内にとどまっていた。
- 3 儒家思想は体制順応のお手本であるため、日本においても旧文明・旧思想を批判し、封建制度にまつわるいっさいのものを清算する必要がある。
- 4 人民が最高の主権者であると孟子は考えたが、朱子はそれをねじ曲げて、人民をそこなう水害がおこるなら、社稷を
変置すればよいと結論した。

次の文章をよく読んで、設問に対する答えを、解答用紙の該当欄に記入、またはマークしなさい。

後冷泉院の御時、源中納言経成卿、注1檢非違使注2別当にて、十五年まで使庁を行はれけり。ある時、左獄近く炎上ありて、火、すでに獄舎に移りなむとしける時、檢非違使の、犯人を出だすべき由、申しければ、別当のたまひけるは、「帝のあたる犯しなすあひだ、その罪によりて、いましめかうむること、人の与ふるにあらず。天の知らしむるところなり。いかでか、その責めをのがれむ。許し出だすべからず」といはれければ、火近づくにしがひて、犯人、音をあげて、をめき叫ぶ。天にも聞え、地にも動くばかりなりけれども、つひに出ださずして、さながら焼け死ににけり。そののち、別当失せられにける時、かの獄囚の音、耳にあるがごとくに聞ゆるとて、臨終も心よからずありけり。そのうへ、重資・師賢とて、中納言までなりたる、おほせしかども、その末、絶えにけり。これまた、法の理といひながら、むげに慙愧なき心のほど、罪深くおぼゆ。注3坂上允亮注4が廷尉の職を辞して、かうぶりをたまはりけるは、やうかはれりけり。また、大理、注6たれとかや、犯人の、おのづから獄舎の下を掘りて、逃げ出づること、あらせじがために、四面に土の底を、板を掘り入れて、たてられたりけり。この奉公の忠、さることなれども、かやうまでの思ひはかりは、罪業の因にもやと、よしなくおぼゆ。E

すべて、慈悲、刑の疑はしきは、軽きにつくべきの由、法令の定めありとかや。されば疑ひ犯すところの咎、なほきはめずして、その疑ひ残らむ輩におきては、君のため、世のため、Hさせる苦しみあるまじくは、その罪をなだめ、軽めむこと、ひとへに徳政なるべし。あまねき慈悲なるべし。注7夏の禹王の御時は、I「罪を行はざれば、天下いましめがたし。行はむとすれば、人々痛みしのびがたし」といひて、つねに泣き給へり。注8時務策といふ文には、「夏禹、罪に泣く」と申したるは、これなり。されば、わが朝には、嵯峨天皇の御時より、死罪をばとどめられにけり。かやうのこと、もとより、その品上がれるはことわりなり。下れるものの中にも、その情けありけり。

(『十訓抄』による)

注1 源中納言経成卿一〇〇九一六六。『続古事談』には、多くの罪人を処刑することによって中納言への昇任を祈った話が残される。

注2 検非違使は京中の犯罪をとりしまり、治安の維持にあたった職。別当は長官。検非違使の役所が検非違使庁で、「使庁」はその略。

注3 坂上允亮は惟宗允亮の誤りとされる。允亮は平安時代の明法博士で、検非違使にも任ぜられた。生没年は未詳。『宝物集』には、「允亮、検非違使を申けるころ、夢に、地獄に落ちる官をのぞむと、獄卒鉄の札に付るとみて、検非違使にならで五位に成たることなり」とある。「鉄の札」は地獄に送る罪人の名を記録した帳面。

注4 廷尉は検非違使佐(二等官)、検非違使尉(三等官)の唐名。

注5 かうぶりをたまはりけるは五位に叙されたこと。

注6 大理は検非違使別当の唐名。

注7 夏の禹王は夏の初代の王。聖王とされる。

注8 時務策は時局の政治を論じたもの。具体的にどの策文であるかは未詳。

問1 傍線部A「移りなむ」の「なむ」と文法的説明が同じになる用例を、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

1 我妹子は釧にあらなむ左手の我が奥の手に巻きて去なましを(『万葉集』)

2 たもとより離れて珠を包まめやこれなむそれとうつせみむかし(『古今和歌集』)

3 恨みわび干さぬ袖だにあるものを恋に朽ちなむ名こそ惜しけれ(『後拾遺和歌集』)

4 ねがはくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月のころ(『山家集』)

問2 傍線部B「犯人を出だすべき由」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 放火犯を捜しあててる方法
- 2 囚人を獄舎から避難させる旨
- 3 被疑者を使庁に呼び出す機会
- 4 罪人を消火活動にあたらせる点

問3 傍線部C「いかでか、その責めをのがれむ」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 犯罪に対する咎めを免れることができようか
- 2 別当としての職務を放棄することができようか
- 3 人非人だという非難を無視することができようか
- 4 冤罪を生んだ責任を不問にすることができようか

問4 傍線部D「廷尉の職を辞して」とあるが、允亮はなぜ職を辞したのか。その理由としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 法を厳格に運用しなければならぬ検非違使の重責を果たすには、自分では力不足であると判断したため。
- 2 検非違使が権力者の意向を斟酌してしまつと、冤罪の成立に加担しかねないおそれがあると判断したため。
- 3 非人道的な検非違使の職務を拒否することで、己の筋を通す人物であるという名声が得られると判断したため。
- 4 人の生死に関わる検非違使の仕事を全うすることで、かえって罪作りになりかねない場合もあると判断したため。

問5 傍線部E「よしなくおほゆ」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 つまらないことに思われる
- 2 不安なことに思われる
- 3 風情のないように思われる
- 4 不確かなように思われる

問6 傍線部F「慈悲」と同じ意味で使われている語を、本文中より二字で抜き出しなさい。

問7 傍線部G「きはめずして」とあるが、ここでの「きはむ」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 完全犯罪を実行すること
- 2 捜査の方法論を学ぶこと
- 3 犯罪の責任を糾明すること
- 4 判例を調べつくすこと

問8 傍線部H「させる苦しみあるまじくは」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 たいしたやましさもないだろうからといって
- 2 たいへん見苦しくなってしまうのならば
- 3 わずかな苦しみでもあつてはならないので
- 4 これというほどの不都合がないようであれば

問9 傍線部I「罪を行はざれば」の解釈としてもっともふさわしいものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 犯罪を起こさないならば
- 2 犯罪を無視しないならば
- 3 犯罪を処罰しなければ
- 4 犯罪をなくすよう祈らなければ

問10 本文の内容と合致するものを、次の選択肢の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 1 源経成は、誰も気づかないような些細な悪事であっても、その犯人は天罰を免れることができないと考えた。
- 2 法の下に囚人を死なせることも厭わなかった源経成の死に目はよいものでなく、彼の子孫も絶えてしまった。
- 3 囚人が脱走できないように獄舎の不備を改めた検非違使別当は、天皇から忠勤ぶりを褒め称えられた。
- 4 夏の禹王や日本の嵯峨天皇は、過去の好例に学んだ結果、「疑わしきは罰せず」という原則を打ち立てた。

